

【グリフィスの^{いっしょう}一生】

(^{ほんみやう}本名 ウィリアム・エリオット・グリフィス)

^{せいぼつねん}生没年 1843～1928



① ^{くろふね}黒船^みを見る (6 さい、1850 年)

グリフィスがまだ小さい^{ころ}頃、お父さんに連れられて大きな^{ふね}船の^{しんすいしき}進水式を見に行きました。その^{ふね}船こそ、のちに日本との^{こっこう}国交を^{むす}結ぶために^{たいへいよう}太平洋を^{わた}渡るペリーの「^{くろふね}黒船」こと、サスケハナ^{ごう}号でした。アメリカで^{とうよう}東洋への^{かんしん}関心が高まっている^{じだい}時代をグリフィスは^す過ごしました。

② ^{ぼくし}牧師^きになろうと決める (20 さい、1864 年)



グリフィスが^{じゅうだい}十代の^{ころ}頃、^{かれ}彼の^{くに}国 (アメリカ) で^{せんそう}戦争が^お起こり、^{おおぜい}大勢の^{ひと}人が^な亡くなりました。グリフィスも^{へいたい}兵隊として^{たたか}戦いました。戦争の^ひ悲さんさを知り、キリストの^{おし}教えにしたがって^い生きる^{みち}道

^{ひとびと}人々に^{つた}伝えることを^{いっしょう}一生の^{しごと}仕事にしようと決めて、^き勉強するために^{べんきよう}ラトガース^{だいがく}大学に入りました。

③ 日本にほんの武士ぶしに出会であう (23 さい、1867 年)



大学で学まなびながら、グリフィスわか ひとは若い人たち

が通かよう学校がっこうで勉べんきょう強おしを教かえました。彼かれの生せい徒と

の中なかには、アメリカすすの進かんだ化学がくや学がくもん問もんを

学まなびに來た武士ぶしたちもいました。福井ふくいから

來た日下部きさかべ太郎たろうはみんなが驚おどろくほど賢かしこい

がんばりやでしたが、大学だいがくを卒そつぎょう業まする前まえに肺はいの病びょうき氣なで亡なくなりました。

④ 福井ふくいの学がっこう校おしで教おしえる (27 さい、1871 年)



この頃ころの福井の人たちは、アメリカやヨーロッパの

進とんだ学ねっしん問しんを取とり入れることに熱ねっしん心しんでした。そのた

め、福井のお殿とのさま様まねはグリフィスを先生せんせいとして招まねくこ

とになりました。当時とうじの日本にっぽんで最もっとも進すすんだ内ない容ようの化学がくを、福井の生せい徒とたちはグ

リフィスから学まなびました。

⑤ 武士ぶしの時じ代だいが終おわる (28 さい、1871 年)



日本にっぽん政府せいふによって廃はい藩はん置ち県けん (※) が行おこなわれました。福井のお殿とのさま様まねは東とう京きょうに引ひ越こ

廃藩前



しするよう命令^{めいれい}され、とつぜん家来^{けらい}たちと別^{わか}れなければ
ばならなくなりました。

殿様が福井を去るこ

とになり、お城^{しろ}で別れの会が行われました。殿様^{とのさま}

は武士たちに、「今まで藩^{はん}を支^{ささ}えてくれてありが



とう、これからは日本という国のためがんばってほしい。」と話しました。家来

たちもお殿様との別れをつらく感じました。こうして日本は武士が治める社会^{しゃかい}

ではなくなりました。グリフィスはその日のことを一生^{いっしょうわす}忘れませんでした。

※廃藩置県^{はいはんちけん}…それまで殿様を中心として地方を治めていた「藩^{はん}」をやめて、
「県^{けん}」を置き、日本政府が全国をまとめて治める方法^{おさ}に変^かえたこと。
殿様の代わりに政府^{せいふ}が決めた知事^{ちじ}が、県を治めることになった。

⑥ 帰国^{きこく}して、日本の歴史^{にほん れきし}を本にまとめる (31 さい、1874 年)

あたら 新 しい日本をつくるため勉強^{べんきょう}に励^{はげ}む人たち



とともに暮^くらして、どうして日本人^{にほんじん}はこんな

にがんばれるのだろうとグリフィスは思^{おも}いま

した。そして日本人や日本という国^{くに}を知るた

めには、日本の歴史^{にほん れきし}を知らなければならぬ

かんが と考えました。のちにとうきょう がっこう おし 東京の学校で教えるようになってからも、グリフィスは
おお ひと はな おお にほんじん ちが おな 多くの人と話し、アメリカ人と日本人とで違うところや同じところがたくさん
あることを知りました。そしてアメリカと日本、それぞれの文化を知ることが
たいせつ 大切だ、と自分の国の人たちにつた えようと思ひ、帰国して本にまとめました。

⑦ アメリカと日本のかけ橋になる

グリフィスが帰国してから書き上げた日本の歴史の本は、日本を知るためのすばらし

い本として、なが あいだ 長い間、たくさんの人々に読

まれました。ちきゅう 地球に住むすべての人々の歴史がとうと 尊いもので、日本人もアメリカ人も

同じように、世界のためにがんばって生きているのだとグリフィスはかた つづ 語り続けま

した。60歳でさい ぼくし いんたい あと 牧師を引退した後も、たくさんの本を書き続けました。



⑧ 最後のお別れ(83 さい、1927 年)

84歳でさい な なくなるまえ とし 前の年、グリフィスはおく

んといっしょに、ふたたび ふくい 再び福井にやっ来てま

した。50年以上の いじょう あいだ まち 間に、町のなにもかも

がすっかりか 変わってしまいました。でもふくい 福井の人たちは、グリフィスが いっしょうけ



んめい^{べんきょう}勉強^{おし}を^{かえ}教えてくれたこと、アメリカに^{にほん}帰^{おうえん}ってからも日本を^{つづ}応援^{つづ}し続けて
くれていたことに、とても^{かんしゃ}感謝^{だいかんげい}していました。グリフィスは町の人たちに大^{だいかんげい}歓迎
され、^{かんどう}感動^{なみだ}で涙^{なみだ}があふれるのをおさえられませんでした。

⑨ ^{ひとびと}人々の^{いの}しあわせを^{いの}祈る

^{ふくい}福井^くで暮^{ふくい}らしていたころのグリフィスには、^{ふくい}福井の

^{ひと}人^{ひと}たちがアメリカ人とくらべて、とてもおだやか

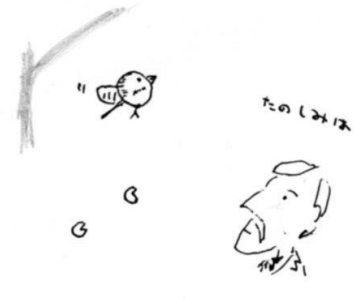
に、^{たの}楽し^いそうに^み生^みきているように^{みつよういじょう}見え^{みつよういじょう}ました。それは、^{みつよういじょう}必要^{みつよういじょう}以上のものを^{ほしが}ほしが

らず、^{にちじょう}日常^{ちい}の^{たいせつ}小さな^{たいせつ}しあわせを^{かれ}大切^{おち}に^{にほん}しているからだと^{にほん}彼は^{にほん}思^{にほん}いました。

は昔^{むかし}と^{くら}比べて^{くに}りっぱな^{くに}国^{くに}になっただけでも、そのために^{がんばる}がんばる^{だけ}だけではなく、

^{ほんとう}本当^{たいせつ}にしあわせ^{わす}かどうかを^い大切^いに^{ふくい}忘れ^{ふくい}ずに^{ふくい}生^{ふくい}きて^{ふくい}ほしいと、グリフィスは^{ふくい}福井^{ふくい}の

^{ひと}人^{ひと}たちのために^{いの}祈^{いの}りました。



年表

- 1843 ^{べいこく} 米国ペンシルバニア州 ^{しゅう} フィラデルフィア ^う 生まれ【①】
- 1865 ラトガース大学 ^{だいがくにゅうがく} 入学 (場所 ^{ばしょ} は米国 ^{べいこく} ニュージャージー州 ^{しゅう} ニューブランズ
ウィック。ニューヨークからも近い)【②】
- 1867 ラトガース大学で ^{にほんじんりゅうがくせい} 日本人留学生と ^し 知り ^あ 合う【③】
- 1869 大学を ^{そつぎょう} 卒業し、^{ぼくし} 牧師になるための ^{べんきょう} 勉強 ^{つづ} を続ける
- 1870 4月 ^{くさかべたろう} 日下部太郎のお ^{そうしき} 葬式 ^で に出る 12月 ^{らいにち} 来日 (^{よこはま} 横浜 ^{とうちやく} に到着)
- 1871 3月 ^{ふくい} 福井に到着、^{がっこう} 学校 (^{めいしんかん} 明新館) で ^{じゅぎょう} 授業 ^{をはじめる} をはじめる【④】
- 8月 ^{はくさん} 白山の ^{ちようじょう} 頂上 ^{のぼ} に登る 10月 ^{ふくいははん} 福井廃藩の ^{しきてん} 式典 ^で に出る【⑤】
- 1872 1月 ^{とうきょう} 東京の ^{きょうし} 学校教師として ^よ 呼ばれ、^さ 福井 ^を 去る
- 1874 ^{きこく} 帰国して、^{ぼくし} 牧師になる ^{べんきょう} 勉強 ^{つづ} を続ける (^{さんねんご} 三年後 ^に 牧師 ^{ぼくし} になる)【⑥】
- 1876 『ミカドズ・エンパイア』 (^{にほんし} 日本史 と ^{にほんたいざいき} 日本滞在記) ^{しゅつばん} 出版【⑦】
- 1927 ^{ふたたび} 再び ^{ふくい} 福井 ^き に来て、^{だいかんげい} 大歓迎 ^{よんはくいつか} される (^{たいざい} 四泊五日 ^の 滞在)【⑧】
- 1928 ^な 亡くなる (^{べいこく} 米国 ^{しゅう} フロリダ州 ^{ウィンターパーク} ウィンターパーク)



NY州
ステネグティ
ウィリーのあはれ

NY州
ニューブランズウィック

90-の
おはれ

